



横浜訓盲学院 だより

第14号 (2008年11月号)

2008年11月7日発行

トピックス

- 盲学校と弱視／視覚障害ミニ知識／11月の聖句1P
- 一粒のからし種から／思うツボ2P
- 各種イベント日記3P
- 平成21年度生徒募集／臨床実習／行事予定 他4P

〒231-0847 横浜市中区竹之丸181番地
 URL: <http://homepage3.nifty.com/kunmou/>
 事務部
 TEL045-641-2626 FAX045-641-2627
 E-mail: kunmou-jm@nifty.com
 普通部
 TEL. FAX045-662-1710
 E-mail: kunmou-fu@nifty.com
 理療科
 TEL. FAX045-662-1833
 E-mail: kunmou-ri@nifty.com

盲学校と弱視

学院長 北村光之

盲学校というと全盲の生徒が勉強をする学校を想像されると思いますが、最近の盲学校は全盲の生徒が減り、弱視の生徒が増えています。そのため点字を使う人や白杖を使って歩行する人が少なくなりました。昔は弱視の人が目を使って字を読んだりすると視力が悪くなるとして、弱視も点字を習わせたといいますが、最近はそのようなことはなく、残存する視力を使って読み書きをするのが普通です。

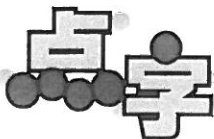
もちろん定期的な目の検診や、正しい目の使い方の指導は必要です。本校では弱視の為の補助具（拡大読書器など）や拡大した教科書、拡大した教材など整備しています。

また、校舎内の床や階段、各部屋の出入り口などコントラストをつけ見えやすい配慮をしています。弱視でお困りの方、仕事を解雇されたりしてお悩みの方は一度ご相談ください。

マッサージや鍼の免許を取る課程の「理療科」では年間を通して随時相談に応じています。

視覚障害

ミニ知識



11月1日は点字制定の日

駅の券売機だけでなく、食品や電化製品など様々なところで見かけるようになった点字ですが、いつ作られたかご存じですか。点字は1825年、フランス・パリの盲学校の生徒だったルイ・ブライユ（1809～1852）によって考案されました。それまでは、紙に普通の文字を浮き出したものや、ひもの結び目で文字を表すものがありましたが、これでは速く読めなかったり、自由に書くことができませんでした。ルイ・ブライユの考案した6点の点字によって視覚障害者の文字「点字」が完成したのです。

日本では1887年にはじめて点字が使われましたが、当時はアルファベットのままでした。そこで「何とか日本語の点字を作りたい」と東京盲啞学校の先生や生徒たちでいろいろな案を考え出し、1890年11月1日に石川倉次の案が日本の点字として採用されました。その日にちなんで、日本では11月1日を「点字制定の日」としています。



「明日のことまで思い悩むな。その日の苦勞はその日だけで十分である。」

マタイによる福音書 6章34節



《11月の聖句》

収穫を喜ぶ季節です。神の豊かな恵みを感謝して喜んで過ごしましょう。

一粒のからし種から

横浜上原教会 牧師 古旗 誠

最初は小さな種だった ふりそそぐ神の恵みを 受け止めるだけで
喜びに溢れていた 渴ききった 一粒の生命だった

(星野富弘氏の詩)

イエス・キリストの教えの「一粒のからし種のたとえ」を連想させてくれます。一粒のからし種は、とても小さな種です。ゴマ粒よりも小さなものですが、芽を出して成長すると、3メートル程になり、空の鳥も巣を作って平和に暮らすことができるほどなのです。

横浜訓盲学院は、来年創立120年(1889年創立)を迎えます。2009年は、横浜の港が開港されて150年となりますが、メソヂスト教会の日本宣教は1873年キリスト教禁教令の撤廃の年にサムエル・マックレー宣教師(横浜上原教会の創設者・青山学院の初代院長)の来日をもって開始されました。その後、マックレー宣教師の息子が宣教師になって日本に来るはずだったのですが、突然の死でもって落胆している父親のマックレー宣教師の悲しみを知って、ギデオン・ドレーパー青年が親友の志を継いで派遣されて来ました。さらに、ギデオン・ドレーパー宣教師を支えるために、彼の両親(隠退教師)が後を追って来日(1889年)するのですが、彼の父は長い船旅と高齢のために日本に到着してわずか7週間で召されていくのです。異国の地での深い悲しみが、母ピンクニー・ドレーパーの神への祈りとなっていくのです。日本で何をすることができるかという真剣な祈りが一人の盲人少女との出会いとなるのでした。そして、日本の盲人教育こそが自分に神から示された召命であると受けとめて、横浜訓盲(学)院を設立していくのでした。その後、函館に息子の転任とともに連れ立って行くのですが、その函館にも盲学校を設立しました。そして、函館で召されていくのですが、来日してわずか10年の滞在で「二つの盲人施設」と「100人の盲人」にイエス・キリストの福音を宣べ伝え、洗礼を授けていきました。

それから、120年となろうとしています。横浜訓盲学院及び横浜訓盲院は、はじめに蒔かれた一粒の種が成長して今日に至っているのです。イエス・キリストの良き知らせ・喜びの教え・いと小さな者を愛される福音に相応しく歩めますように、これからも皆様のお祈りをよろしくお願い致します。

思う
ツボ

『疳の虫(かんのむし)』って本当にいるの？

古くから東洋医学では小児の病を『疳』と呼び、昔の人は「虫の知らせ」や「腹の虫が鳴る」などのように、体に起こる現象は体内から湧いた虫によって起きると考えてきました。日本では『疳の虫』は幼児の興奮、不機嫌、かんしゃく、夜泣きなどを指しますが、これは幼児の心が不安定で神経質になっている状態で、ほとんどは自然になおっていくものです。しかしまれに『疳の虫』が強い子供が「虫ぎり」をしに、鍼灸院へ来院されます。

鍼灸では小児専用の「小児鍼(しょうにん)」や「ちりけの灸」などを使ってこれらの症状を改善することができますが、子供に鍼をやってみようとするお母さん方は少ないかもしれません。まずは家庭でできることを試してみましょう。

◎抱いて背中をさすってあげてください。 ◎ふくらはぎをさすって温めてあげてください。

◎お腹に手をあてて、時計回りになでてあげてください。

同時にお母さんの気持ちを安定させることも大切です。是非やってみてください。

プール教室

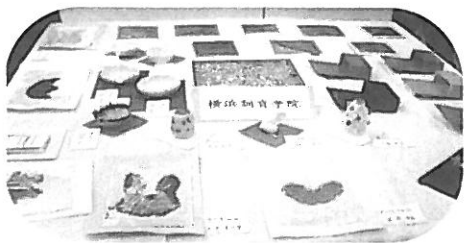


普通部では毎年プール教室を行っています。プール施設を持たない本学院ですが、水の中で体を動かしたり水に浮いたりする感覚や泳ぐ運動は、子どもたちにとってとても大切です。



今年度も「清水ヶ丘公園プール」、「本牧市民プール」、「ふれーゆ（幼小グループのみ）」の各施設を利用し、みんなで楽しく水に親しんだり、泳ぎの練習に取り組み、充実したプール教室ができました。特に夏休み期間に行った「本

牧市民プール」は天候にも恵まれ、まさに「夏まっさかり」の屋外プールを満喫できました。フロートに乗ってブカブカ浮いたり、大噴水から注ぐシャワーに歓声をあげたり、スライダーを滑り降りて水に突入したりと、みんなで屋外プールを楽しむことができました。来年の夏が来るのが待ち遠しいくらい、プールが大好きな普通部の子どもたちです。



9月に児童絵画展が開かれました

9月の8日から12日の期間で、中区寿町の「かながわ労働プラザ」にて『第16回児童絵画展』が開かれました（主催：神奈川淡彩画会、共催：横浜中ロータリークラブ・横浜市中区社会福祉協議会）。この展覧会には横浜訓盲学院の児童・生徒の作品も展示され、砂絵や粘土、木工などの作品が会場に並びました。素敵に仕上がった作品を、多くの方に見てもらうことができました。

日光・鬼怒川温泉へ修学旅行に行ってきました



10月1日、2日の1泊2日の日程で小学部6年生の3名が日光・鬼怒川温泉へ修学旅行に行ってきました。

初日は、浅草駅で乗った『特急きぬ』の車内で駅弁を食べ、日光東照宮を見学しました。有名な「見ざる、言はざる、聞かざる」の前では、みんなで同じポーズを取りました。ホテル到着後、早速浴衣に着替え、皆で温泉へ。温泉は少し熱かったですが、大きな湯船で大はしゃぎ。夕食も沢山食べました。2日目は、日光江戸村に行き、忍者劇やからくり屋敷を楽しみ、おみやげを買いました。



あっという間の2日間でしたが、それぞれの心に残る、思い出深い修学旅行になりました。



普通部・秋の遠足

10月17日(金)、気持ちの良い秋晴れの中、横須賀市にある「長井海の手公園ソレイユの丘」へ遠足に行きました。

天気、気温は良好、海の近い現地では心地良い風が吹き、最高の遠足日和。ゴーカートや汽車型のバスなど多彩な乗り物を楽しみ、吊り橋や展望台を巡る散歩コースも最高でした。立派なアスレチックもあり、牧場に行けば馬にポニーに羊にヤギ、ハムスターまでもがお出迎え。様々な楽しい体験ができ、大満足な子どもたちでした。

学校開放『ハンドベルコンサート』

10月18日(土)に開催しました第2回学校開放では、「牧心塾ハンドベルリングーズ」の方々をお招きし、秋の音楽会を行いました。当日は学院の子どもたちをはじめ、地域の方々や保護者の方々にご来場いただき、大盛況の中、ハンドベルの音色を楽しむことができました。曲目は、「もみじ」「涙そうそう」「さんぽ」など馴染みの曲の他、子どもたちに大人気の「崖の上のポニョ」も演奏され、一番の盛り上がりを見せていました。ハンドベル体験コーナーでは、実際にそれぞれ音程の違うベルを持ち、「幸せなら手を叩こう」に合わせて鳴らすことができました。学校開放を通じて、これからもたくさんの方々に訓盲学院のことを知って頂きたいと思えます。ぜひ次回の「お餅つき」にもふるってご参加下さい。



平成21年度生徒募集

【普通部】幼児・児童・生徒

- 募集定員（各部若干名）
 - 幼稚部（3歳児・4歳児・5歳児）計6名
 - 小学部……………1年生4名
 - 中学部……………1年生4名
 - 高等部普通科……………1年生4名
 - 高等部専攻科生活科……………1年生4名
- 募集期間
 - 《一次募集》
平成21年1月9日～平成21年2月4日
 - 《二次募集》
平成21年2月16日～平成21年3月4日
- 入学検定方法
本人及び保護者との面接により決定します。
- お問い合わせ
普通部（直通）TEL.045-662-1710

【高等部理療科】

- 募集定員（各部若干名）
 - 本科保健理療科（3年課程）……………1年生4名
 - 専攻科理療科（3年課程）……………1年生8名
- 募集期間
 - 《一次募集》
平成20年10月14日～平成21年1月14日
 - 《二次募集》
平成21年1月19日～平成21年3月13日
- 入学検定方法
 - ・一次 平成21年1月17日（土）午前9時～
 - ・二次 随時。出願書類提出後、調整のうえ試験日を定め実施。
- お問い合わせ
理療科（直通）TEL.045-662-1833

臨床実習のご案内

当学院では授業の一環として、あんま・マッサージ・指圧および、はり灸の臨床（治療）を行っています。是非ご利用下さい。

- ★あんま・マッサージ・指圧……金
- ★はり灸……………火
- ★はり灸・マッサージ……………木



料 金 一律 1000円
時 間 9:45～12:00

ご予約はお電話で!

当日の朝 8:45～9:10 電話 090-9009-5882

お問い合わせは理療科まで
電話 045-662-1833

20年度後期の主な行事予定

- 11月 1日（土） 普通部保護者参観日
- 8日（土） はまどり乗船会
- 15日（土） PTAバザー
- 12月23日（火） クリスマス祝会
- 25日（木） 冬休み開始
- 1月 7日（水） 理療科冬休み終了
- 8日（木） 普通部冬休み終了・スケート教室
- 24日（土） 学校開放「お餅つき」
- 2月20日（金） 普通部保護者参観日
- 21日（土） あん摩マッサージ指圧師国家試験
- 22日（日） はり師きゅう師国家試験
- 3月 4日（水） マラソン大会
- 19日（木） 平成20年度卒業式・修了式

学校開放のご案内 もっともっと、地域の方々に訓盲学院や視覚障害について知ってもらいたいと思っています。どうぞご参加ください。

第3回
1月24日（土）
「お餅つき」

※予定は変更になる場合があります。詳しくは横浜訓盲学院までお問い合わせ下さい。

PTAバザーのご案内

日時：11月15日（土）12:00～15:00（雨天決行）
場所：横浜訓盲学院 前庭・講堂など

今年も恒例のPTAバザーを開催致します。焼きそば・お好み焼き、生花の鉢植え、普通部生徒の手作りお菓子コーナー、雑貨販売などの他に、理療科では生徒によるクイックマッサージとピアノの演奏会が催されます。ぜひ、お立ち寄りください。



ご協力のお願い

私どもの視覚障害教育にご理解いただき、ご支援下さる団体・個人の方々の賛助会員を募らせていただいております。よろしく願い申し上げます。

- 【年 会 費】 個人会員（1口）1,000円
団体会員（1口）10,000円（口数は問いません）
- 【お支払い方法】 ・郵便振替〔加入者名〕学校法人横浜訓盲学院（口座番号 00200-5-40861）
・現金
- 【そ の 他】 会費以外に寄附金も有難くお受けいたします。
- 【お問合せ先】 横浜訓盲学院 事務部 TEL.045-641-2626